

食の安全体制づくりと養護教諭の複数配置に関する請願

1 要 旨

食の安全・安心のための体制づくりに努めるよう求める。また、子供たちの健康問題やアレルギー疾患等に十分に対応し、健やかな成長をサポートしていけるよう、県独自で養護教諭の複数配置を実現するよう求める。

2 理 由

2012年に他県で、給食により子供がアナフィラキシーと思われる呼吸困難を発症し、エピペンの使用がおくれたこともあり、命を失うという痛ましい事故が発生した。その後も、各地でアナフィラキシーショックの事例が報告されている。

文部科学省は、2007年から2013年の間で、小中学生のアナフィラキシー罹患率が3.5倍に増加し、食物アレルギー罹患率も1.7倍に増加したことを公表している。

養護教諭は、子供たち一人一人の健康状態を把握し、体調の急激な変化に迅速に対応する専門職として、極めて重要である。しかし、大規模校では保健室に1日30人以上の来室者があるなど、養護教諭一人では十分な対応が難しいという実態もある。

国の基準によると、小学校では851人以上、中学校では801人以上で養護教諭が複数配置されるが、子供たちに寄り添い、健康回復に向けて丁寧に対応するためにも、県独自の養護教諭の複数配置が望まれる。

3 提 出 者

福井の教育をよくするための県民連合

連合福井 会長 山岸克司

福井県PTA連合会 会長 橘英亜機

公益財団法人青少年育成福井県民会議 会長 山崎幸雄

一般社団法人福井県子ども会育成連合会 会長 山崎暢子

福井県退職教職員会 会長 奥本明義

福井県教職員組合 執行委員長 竹野亨

4 紹 介 議 員

山本正雄、糀谷好晃、井ノ部航太

5 受 理 年 月 日

平成28年11月22日